

1

[解答解説のページへ](#)

$m, n$  を正の整数とする。以下の問いに答えよ。

- (1)  $x^{3m} - 1$  は  $x^3 - 1$  で割り切れることを示せ。
- (2)  $x^n - 1$  を  $x^2 + x + 1$  で割った余りを求めよ。
- (3)  $x^{2024} - 1$  を  $x^2 - x + 1$  で割った余りを求めよ。

2

解答解説のページへ

数直線上を動く点  $P$  がある。点  $P$  は、原点  $O$  を出発して、1 枚のコインを 1 回投げごとに、表が出たら数直線上を正の向きに 1 だけ進み、裏が出たら数直線上を負の向きに 1 だけ進むものとする。コインの表が出る確率と裏が出る確率はともに  $\frac{1}{2}$  であり、コインを  $n$  回投げ終えた時点での点  $P$  の座標を  $x_n$  とする。コインを 10 回投げるとき、以下の問いに答えよ。

- (1)  $x_{10} = 0$  となる確率を求めよ。
- (2)  $x_5 \neq 1$  かつ  $x_{10} = 0$  となる確率を求めよ。
- (3)  $0 \leq x_n \leq 3$  ( $n = 1, 2, \dots, 9$ ) かつ  $x_{10} = 0$  となる確率を求めよ。

3

解答解説のページへ

四面体  $OABC$  において、 $OA = OB = OC = 1$  とし、 $\angle COA = \alpha$ 、 $\angle COB = \beta$ 、 $\angle AOB = \gamma$  とする。ただし、 $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ 、 $0 < \beta < \frac{\pi}{2}$  とする。辺  $OA$  の延長上に点  $D$  を  $\overrightarrow{OC}$  と  $\overrightarrow{CD}$  が垂直になるようにとり、辺  $OB$  の延長上に点  $E$  を  $\overrightarrow{OC}$  と  $\overrightarrow{CE}$  が垂直になるようにとる。 $\angle DCE = \theta$  とし、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ 、 $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$  とするとき、以下の問いに答えよ。

- (1)  $\overrightarrow{CD}$  を  $\vec{a}$ 、 $\vec{c}$ 、 $\cos \alpha$  を用いて表せ。また、 $\overrightarrow{CE}$  を  $\vec{b}$ 、 $\vec{c}$ 、 $\cos \beta$  を用いて表せ。
- (2)  $\cos \theta$  を  $\sin \alpha$ 、 $\cos \alpha$ 、 $\sin \beta$ 、 $\cos \beta$ 、 $\cos \gamma$  を用いて表せ。
- (3)  $\cos \gamma = \cos \alpha \cos \beta$ 、 $\beta = \frac{\pi}{2} - \alpha$  とする。点  $C$  から平面  $DOE$  に下ろした垂線の足を  $P$  とするとき、 $CP = \frac{1}{\tan \gamma}$  となることを示せ。

4

解答解説のページへ

座標平面上で、線分  $S: x + y = 1$  ( $0 \leq x \leq 1$ ) と曲線  $C: \sqrt{x} + \sqrt{y} = 1$  で囲まれた図形  $D$  を考える。 $S$  上に点  $(0, 1)$  からの距離が  $t$  となる点  $P$  をとる。このとき、 $0 \leq t \leq \sqrt{2}$  である。また、点  $P$  を通り、直線  $x + y = 1$  と垂直に交わる直線を  $l$  とする。以下の問いに答えよ。

- (1) 直線  $l$  の方程式を  $t$  を用いて表せ。
- (2) 直線  $l$  と曲線  $C$  の交点を  $Q$  とする。線分  $PQ$  の長さを  $t$  を用いて表せ。
- (3) 図形  $D$  を直線  $x + y = 1$  のまわりに 1 回転してできる回転体の体積を求めよ。

1

問題のページへ

(1) 正の整数  $m$  で,  $x^{3m} - 1 = (x^3)^m - 1 = (x^3 - 1)\{(x^3)^{m-1} + (x^3)^{m-2} + \dots + x^3 + 1\}$

これより,  $x^{3m} - 1$  は  $x^3 - 1$  で割り切れる。

(2) (1)より,  $x^{3m} - 1 = (x-1)(x^2 + x + 1)\{(x^3)^{m-1} + (x^3)^{m-2} + \dots + x^3 + 1\}$  となり, こ

こで  $q(x) = (x-1)\{(x^3)^{m-1} + (x^3)^{m-2} + \dots + x^3 + 1\}$  とおくと,

$$x^{3m} - 1 = (x^2 + x + 1)q(x) \dots \dots \dots \textcircled{1}$$

さて,  $x^n - 1$  を  $x^2 + x + 1$  で割った余りについて,  $n$  の値で場合分けをすると,

(i)  $n = 3m$  のとき  $\textcircled{1}$ より, 余りは  $0$  である。

(ii)  $n = 3m + 1$  のとき  $x^{3m+1} - 1 = x \cdot x^{3m} - 1$  とみて,  $\textcircled{1}$  を利用すると,

$$x^{3m+1} - 1 = x\{(x^2 + x + 1)q(x) + 1\} - 1 = (x^2 + x + 1)\{xq(x)\} + x - 1$$

これより, 余りは  $x - 1$  である。

(iii)  $n = 3m + 2$  のとき  $x^{3m+2} - 1 = x^2 \cdot x^{3m} - 1$  とみて,  $\textcircled{1}$  を利用すると,

$$\begin{aligned} x^{3m+2} - 1 &= x^2\{(x^2 + x + 1)q(x) + 1\} - 1 = (x^2 + x + 1)\{x^2q(x)\} + x^2 - 1 \\ &= (x^2 + x + 1)\{x^2q(x)\} + (x^2 + x + 1) \cdot 1 - x - 2 \\ &= (x^2 + x + 1)\{x^2q(x) + 1\} - x - 2 \end{aligned}$$

これより, 余りは  $-x - 2$  である。

なお,  $n = 1$  のときは,  $x - 1 = (x^2 + x + 1) \cdot 0 + x - 1$  より余りは  $x - 1$ ,  $n = 2$  のときは,  $x^2 - 1 = (x^2 + x + 1) \cdot 1 - x - 2$  より余りは  $-x - 2$  である。

以上より,  $\text{mod } 3$  で  $n$  を記述すると,

$$n \equiv 0 \text{ のとき余り } 0, \quad n \equiv 1 \text{ のとき余り } x - 1, \quad n \equiv 2 \text{ のとき余り } -x - 2$$

(3)  $x^{2024} - 1$  を  $x^2 - x + 1$  で割った商を  $p(x)$ , 余りを  $ax + b$  とすると,

$$x^{2024} - 1 = (x^2 - x + 1)p(x) + (ax + b)$$

ここで,  $x = -t$  とおくと,  $t^{2024} - 1 = (t^2 + t + 1)p(-t) + (-at + b) \dots \dots \dots \textcircled{2}$

さて,  $2024 = 3 \times 674 + 2$  から  $2024 \equiv 2$  となり, (2)の結果を $\textcircled{2}$ に適用すると,

$$-at + b = -t - 2$$

よって,  $a = 1, b = -2$  から,  $x^{2024} - 1$  を  $x^2 - x + 1$  で割った余りは  $x - 2$  である。

## [解説]

整式の除法を題材にした問題です。1 の虚立方根  $\omega$  を利用する方法も考えられますが, ここでは設問の流れを重視した解法で記述しました。

2

問題のページへ

数直線上の原点  $O$  を出発して、コインの表が出たら  $+1$ 、裏が出たら  $-1$  だけ進む点  $P$  について、コインを  $n$  回投げ終えた時点での点  $P$  の座標を  $x_n$  とする。

(1) コインを 10 回投げ  $x_{10} = 0$  となるのは、表と裏が 5 回ずつのときで、その確率は、

$${}_{10}C_5 \left(\frac{1}{2}\right)^5 \left(\frac{1}{2}\right)^5 = \frac{2^2 \cdot 3^2 \cdot 7}{2^{10}} = \frac{63}{256}$$

(2)  $x_5 = 1$  となるのは、表が 3 回、裏が 2 回のときで、その確率は、

$${}_5C_3 \left(\frac{1}{2}\right)^3 \left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{2 \cdot 5}{2^5} = \frac{5}{16}$$

$x_5 = 1$  のもとで  $x_{10} = 0$  となるのは、表が 2 回、裏が 3 回のときで、その確率は、

$${}_5C_2 \left(\frac{1}{2}\right)^2 \left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{2 \cdot 5}{2^5} = \frac{5}{16}$$

これより、 $x_5 = 1$  かつ  $x_{10} = 0$  となる確率は、 $\frac{5}{16} \times \frac{5}{16} = \frac{25}{256}$  となる。

したがって、 $x_5 \neq 1$  かつ  $x_{10} = 0$  となる確率は、(1)の結果から、

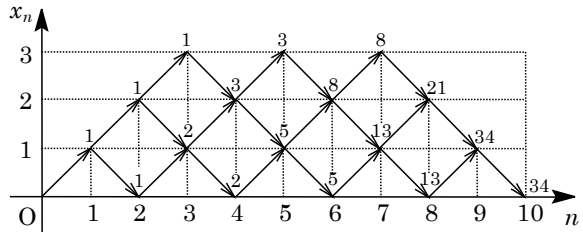
$$\frac{63}{256} - \frac{25}{256} = \frac{19}{128}$$

(3)  $0 \leq x_n \leq 3$  ( $n = 1, 2, \dots, 9$ ) かつ

$x_{10} = 0$  となるのは、右図の 34

通りの経路が対応するので、その確率は、

$$34 \left(\frac{1}{2}\right)^5 \left(\frac{1}{2}\right)^5 = \frac{17}{512}$$



**[解説]**

確率の標準的な問題です。(3)では、 $n = 1, 2, \dots, 9$  の場合にきつい条件が課されているので、図で網羅して数えました。

3

問題のページへ

- (1) 四面体  $OABC$  において,  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ ,  $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$  とするとき,  $|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 1$  から,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \cos \gamma, \quad \vec{b} \cdot \vec{c} = \cos \beta, \quad \vec{c} \cdot \vec{a} = \cos \alpha$$

ここで,  $k$  を実数として  $\overrightarrow{OD} = k\vec{a}$  とおくと,

$$\overrightarrow{CD} = k\vec{a} - \vec{c}$$

$$\overrightarrow{OC} \perp \overrightarrow{CD} \text{ から, } \vec{c} \cdot (k\vec{a} - \vec{c}) = 0 \text{ となり, } k \cos \alpha - 1 = 0$$

$0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$  から  $\cos \alpha > 0$  なので,  $k = \frac{1}{\cos \alpha}$  となり,

$$\overrightarrow{CD} = \frac{1}{\cos \alpha} \vec{a} - \vec{c} \dots \dots \dots \textcircled{1}$$

同様に,  $l$  を実数として  $\overrightarrow{OE} = l\vec{b}$  とおくと,  $\overrightarrow{CE} = l\vec{b} - \vec{c}$  となり,  $\overrightarrow{OC} \perp \overrightarrow{CE}$  から,

$$\vec{c} \cdot (l\vec{b} - \vec{c}) = 0, \quad l \cos \beta - 1 = 0$$

$0 < \beta < \frac{\pi}{2}$  から  $\cos \beta > 0$  なので,  $l = \frac{1}{\cos \beta}$  となり,  $\overrightarrow{CE} = \frac{1}{\cos \beta} \vec{b} - \vec{c} \dots \dots \dots \textcircled{2}$

(2) ①から,  $|\overrightarrow{CD}|^2 = \left| \frac{1}{\cos \alpha} \vec{a} - \vec{c} \right|^2 = \frac{1}{\cos^2 \alpha} - \frac{2}{\cos \alpha} \cdot \cos \alpha + 1 = \frac{1}{\cos^2 \alpha} - 1 = \frac{\sin^2 \alpha}{\cos^2 \alpha}$

②から,  $|\overrightarrow{CE}|^2 = \left| \frac{1}{\cos \beta} \vec{b} - \vec{c} \right|^2 = \frac{1}{\cos^2 \beta} - \frac{2}{\cos \beta} \cdot \cos \beta + 1 = \frac{1}{\cos^2 \beta} - 1 = \frac{\sin^2 \beta}{\cos^2 \beta}$

$$\begin{aligned} \overrightarrow{CD} \cdot \overrightarrow{CE} &= \left( \frac{1}{\cos \alpha} \vec{a} - \vec{c} \right) \cdot \left( \frac{1}{\cos \beta} \vec{b} - \vec{c} \right) = \frac{\cos \gamma}{\cos \alpha \cos \beta} - \frac{\cos \alpha}{\cos \alpha} - \frac{\cos \beta}{\cos \beta} + 1 \\ &= \frac{\cos \gamma}{\cos \alpha \cos \beta} - 1 = \frac{\cos \gamma - \cos \alpha \cos \beta}{\cos \alpha \cos \beta} \end{aligned}$$

$\angle DCE = \theta$  から,  $\cos \theta = \frac{\overrightarrow{CD} \cdot \overrightarrow{CE}}{|\overrightarrow{CD}| |\overrightarrow{CE}|}$  となり,

$$\cos \theta = \frac{\cos \gamma - \cos \alpha \cos \beta}{\cos \alpha \cos \beta} \cdot \frac{\cos \alpha}{\sin \alpha} \cdot \frac{\cos \beta}{\sin \beta} = \frac{\cos \gamma - \cos \alpha \cos \beta}{\sin \alpha \sin \beta}$$

- (3)  $\cos \gamma = \cos \alpha \cos \beta$  から  $\cos \theta = 0$  となり,  $\overrightarrow{CD} \perp \overrightarrow{CE}$  であるので,

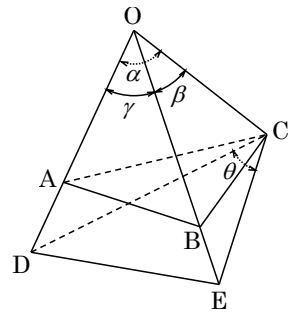
$$\triangle CDE = \frac{1}{2} |\overrightarrow{CD}| |\overrightarrow{CE}| = \frac{1}{2} \cdot \frac{\sin \alpha}{\cos \alpha} \cdot \frac{\sin \beta}{\cos \beta} = \frac{1}{2} \tan \alpha \tan \beta$$

$\beta = \frac{\pi}{2} - \alpha$  から,  $\triangle CDE = \frac{1}{2} \tan \alpha \tan \left( \frac{\pi}{2} - \alpha \right) = \frac{1}{2} \tan \alpha \cdot \frac{1}{\tan \alpha} = \frac{1}{2}$

また,  $\overrightarrow{OC} \perp \overrightarrow{CD}$ ,  $\overrightarrow{OC} \perp \overrightarrow{CE}$  から, 直線  $OC$  は平面  $CDE$  に垂直であり, ここで四面体  $ODEC$  の体積を  $V$  とおくと,

$$V = \frac{1}{3} (\triangle CDE) \cdot OC = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \cdot 1 = \frac{1}{6} \dots \dots \dots \textcircled{3}$$

また,  $|\overrightarrow{OD}| = \frac{1}{\cos \alpha} |\vec{a}| = \frac{1}{\cos \alpha}$ ,  $|\overrightarrow{OE}| = \frac{1}{\cos \beta} |\vec{b}| = \frac{1}{\cos \beta}$  より,



$$\triangle ODE = \frac{1}{2} |\overrightarrow{OD}| |\overrightarrow{OE}| \sin \gamma = \frac{\sin \gamma}{2 \cos \alpha \cos \beta} = \frac{\sin \gamma}{2 \cos \gamma} = \frac{1}{2} \tan \gamma$$

点 C から平面 DOE に下ろした垂線の足を P とすると,

$$V = \frac{1}{3} (\triangle ODE) \cdot CP = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \tan \gamma \cdot CP = \frac{1}{6} CP \tan \gamma \cdots \cdots \textcircled{4}$$

③④から,  $\frac{1}{6} CP \tan \gamma = \frac{1}{6}$  となり,  $CP = \frac{1}{\tan \gamma}$  である。

### [解説]

空間ベクトルの応用についての標準的な問題です。(3)は, 与えられた条件から, 体積を利用する方法で記述しました。



4

問題のページへ

- (1) 線分  $S: x+y=1$  ( $0 \leq x \leq 1$ ) 上で点  $(0, 1)$  からの距離が  $t$  となる点  $P$  の座標は,  $P\left(\frac{t}{\sqrt{2}}, 1-\frac{t}{\sqrt{2}}\right)$  である。

$P$  を通り  $S$  に垂直に交わる直線  $l$  の方程式は,

$$y - \left(1 - \frac{t}{\sqrt{2}}\right) = 1 \cdot \left(x - \frac{t}{\sqrt{2}}\right), \quad y = x - \sqrt{2}t + 1$$

- (2)  $l$  と曲線  $C: \sqrt{x} + \sqrt{y} = 1$  すなわち  $y = (1 - \sqrt{x})^2$  の交点を  $Q$  とすると,  $x - \sqrt{2}t + 1 = (1 - \sqrt{x})^2$  から,

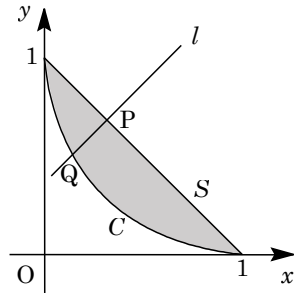
$$x - \sqrt{2}t + 1 = 1 - 2\sqrt{x} + x, \quad 2\sqrt{x} = \sqrt{2}t$$

すると,  $\sqrt{x} = \frac{\sqrt{2}}{2}t$  から  $x = \frac{t^2}{2}$  となり,  $l$  の傾きは 1 であることに注意すると,

$$PQ = \sqrt{2} \left( \frac{t}{\sqrt{2}} - \frac{t^2}{2} \right) = t - \frac{t^2}{\sqrt{2}}$$

- (3)  $S$  と  $C$  で囲まれた図形  $D$  を直線  $x+y=1$  のまわりに 1 回転してできる回転体の体積を  $V$  とおくと,

$$\begin{aligned} V &= \int_0^{\sqrt{2}} \pi PQ^2 dt = \pi \int_0^{\sqrt{2}} \left( t^2 - \sqrt{2}t^3 + \frac{t^4}{2} \right) dt = \pi \left[ \frac{t^3}{3} - \frac{\sqrt{2}}{4}t^4 + \frac{t^5}{10} \right]_0^{\sqrt{2}} \\ &= \pi \left( \frac{1}{3} \cdot 2\sqrt{2} - \frac{\sqrt{2}}{4} \cdot 4 + \frac{1}{10} \cdot 4\sqrt{2} \right) = \frac{\sqrt{2}}{15} \pi \end{aligned}$$



### [解説]

斜回転体の体積を誘導つきで求める問題です。過去には、2003年と2019年に類題が出ており、合わせて演習すべき頻出題です。